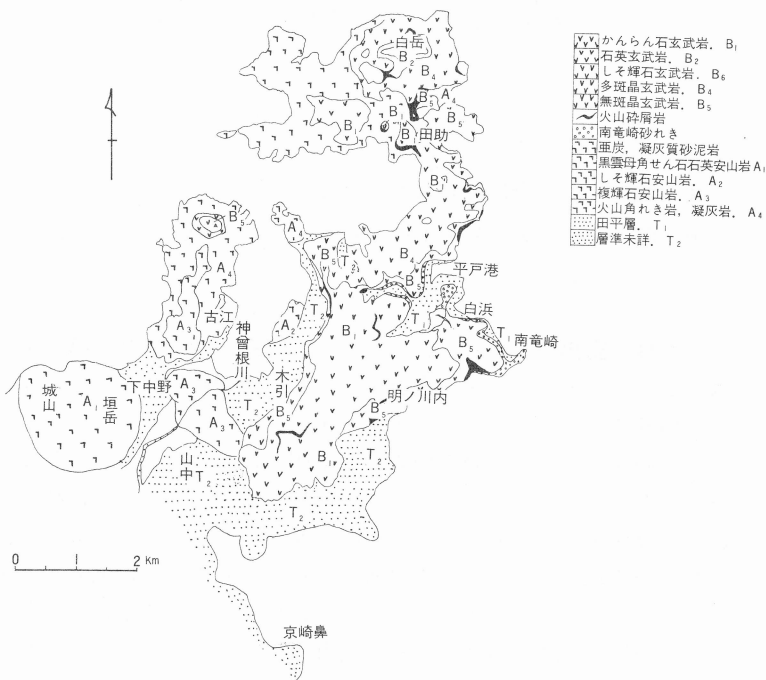


43. 平 戸 島

| | |
|-----|-------------------------------|
| 地 域 | 平戸市 |
| 交 通 | 平戸全島にわたり、西肥バス運行 |
| 地形図 | 平戸・生月・川内・紐差・志々岐・野子 (1/25,000) |

平戸島に露出する地層は、第三系と第四系が主であり、第三系の堆積層は、主として、平戸港を中心として南竜崎に分布しており、平戸南部では、中野・川内・山中・木引を中心に分布するのみである。その他は、第三系の安山岩類と第四系の玄武岩類が、広範な地域にわたって全島を覆っている。一般に、平戸地域の地質は精査された部分が少なく、層準も未だ不明な所が多く残されている。

第三系の堆積層として、田平層が平戸港から南東部に位置する南竜崎にわたって分布している。本層は、佐世保層群の上に不整合にのる全層厚約 1,900m の九十九島層群つくもじまの上位の地層で、平戸層群の最下部にあたる。厚さ 400m 以上と計算されており、れき岩を含む砂岩・泥岩互層として露出する。砂岩中には円磨された石炭のれきが見える。岩石の固結度も一般に低い。猶興館高校の南東部にある白浜部落のさらに東部の白浜海岸にそう崖を見ると、最上部に無斑晶質の玄武岩溶岩があり、その下に火山角れき岩が著しく発達している。その下部に砂れき層が見られるが、これは南竜崎砂れき層と呼ばれる第四系である。チャート、玄武岩、第三系の砂岩泥岩のよく円磨されたれきを含んでいる。この砂れき層の下に、かなり厚い砂岩層が横たわり、60cm ほどの泥岩層をはさんでいる。この部分は第三系の田平層に相当するもので、化石は未発見とされていたが、この泥岩層中から、最近植物化石が見出されている。平戸島には、上述の田平層以外の、層準未詳の第三系の堆積層が発達している。平



平戸北部地質図（5万分の1平戸図幅による）

戸市明川内以南の海岸線，薄香湾南岸，古江湾東方，および中野神曾根川流域，川内南部水垂京崎鼻間の海岸ぞいで，一般に固結度が低く，波紋岩質凝灰岩，安山岩質角れき凝灰岩，シルト岩，泥岩，細れき質砂岩を含んでいる。本層の一部に含まれる主な化石には次のものがある。

植物化石：*Liquidambar formosana*（下中野），*Acer* sp.
Pallurus cfr. *nipponics*, *Phragmites* sp., *Carex* sp.

（山中，堂本）

動物化石：*Pitar* sp.（中野） *Philine* sp.（中野）

中野のバス停から，西部の主師部落へ向って，市道が水田の真中

を走っている。200m程進むと垣岳の麓に達する。この垣岳は、平戸島の西部に広く露出している第三紀後期の黒雲母角せん石石英安山岩の主体をなすもので、溶岩円頂丘をつくっている。採石場の新鮮な岩石を見ると、見事なゼノリス（捕獲岩）を伴う粗面岩質の角れき質安山岩である。隠微晶質の石基の間に、斜長石・石英・角せん石・黒雲母・しそ輝石等の斑晶が見える。主師までのおよそ2kmの間は、凝灰質角れき岩や角れき質凝灰岩、集塊岩等が露出している。垣ノ岳に隣り合う城山の西側斜面には水田が階段状に耕作されているが、城山の安山岩と崩積土との間に地下水の浸透があり、地すべりを起しているため、集水井がほられて排水工事がなされている。平戸島の前津吉・紐差・中野・古江を結ぶほぼ平戸島を縦走する線より西部の広大な地域は、第三紀後期に噴流した筑紫溶岩類で火山角れき岩・溶岩・岩脈・岩床をなし、岩質は両輝石安山岩・しそ輝石安山岩、黒雲母角せん石安山岩などである。前津吉の北方0.6km程の東側海岸の山道には、きれいな黒曜石の露出が見られる。平戸から南の志々岐を経て野子に至るバスの沿道の崖には、上記安山岩質の諸岩類が累々と重っていて、巨大な火山島を行くような感じになる事がしばしばである。平戸島南端野子町の志々岐山は、標高347.2mで、海岸から山頂にかけて鋭く突出し、曲型的なトロイデ（溶岩円頂丘）の様相を呈している。一般に、安山岩質の粘性の大きい火山に特有のものである。平戸島西部は、主に第四系の玄武岩類から成っており、安山岩ならびに田助の夾亜炭凝灰質砂岩層を不整合におおっている。全般的に新鮮なものが少なく、風化が進んで土壌化しており、赤褐色のロームとなっている凝灰岩層が多い。中野町の手前、神曾根川の流域にある採石場には、立派な柱状節理の玄武岩が露出しているが、六角柱の岩石の断面を見ると、まわりがドーナツ状に風化されて変色し、中心部がわずかに新鮮さを保っているの、大きなゼノリスのように見える。 （塩口 登）